

平成 22 年度 継続事務事業評価シート 事業類型 I ソフト事業 2次評価対象

	コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	835	公民館事業経費	会計	01	一般会計
			款	10	教育費
			項	05	社会教育費
			目	05	公民館費
基本 施策	33	だれもが生きがいを持てる機会をつくる	細目	444	公民館活動経費
			細々目	511	公民館事業経費
行革大綱の重点事項番号		1			
担当部課	コード	451400	担当者 氏 名	中 義晴	連絡先 45 - 9122 (内線) 444
	名 称	いがまち公民館			

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	文化団体サークル及び教室参加市民	※対象件数
成果(どうする)	文化サークル活動の活性化や教室を開設することにより、地域住民の生涯学習意欲の向上に役立つ。	
根拠法令・要綱等	社会教育法	
開始年度 平成	年度	関連事業
終了年度 平成	年度	
H21 事業 内 容	公民館教室を7教室開設した。文化協会39サークルの活動支援をした。また、学習成果発表の場として展覧会、芸能発表会をした。 ・教室名…絵本の時間(11回)、朗読勉強会(10回)、男たちのピアノ教室(10回)、ア・ラ・カルト(10回)、バードカービング(10回)、体操タイム(10回)、すぐに役立つ筆ペン教室(10回)	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			目標 7 実績 7	目標 8 実績 7	8	8
いがまち展覧会回数		回	目標 1 実績 1	目標 1 実績 1	1	1

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				目標 150 実績 155	目標 160 実績 149	160	170
いがまち展覧会入場者数		入場者数	人	目標 1500 実績 1500	目標 1500 実績 1500	1600	1600

投入 コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
	直接事業費計 (A)		1,788	1,979	1,819	1,819		
	A の 財 源 内 訳	国庫支出金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他	0	0	0	0	0	0
	一 般 財 源		1,788	1,979	1,819	1,819		
	事業投入人件費 (B)		0.4 人 2,880	0.3 人 2,160	0.2 人 1,440	0.2 人 1,440		
	フルコスト(A)+(B)		4,668	4,139	3,259	3,259		

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必 要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
有 効 性	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
達 成 度	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を「80%以上100%未満」実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
効 率 性	予算の繰越の有無	無
	【予算の繰越がある場合、繰越の額別】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
昨 年 度 の 取 組 状 況	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	
	教室の内容によっては、材料費等を受講生が負担していたりしている。そのことに対しては、当然であるとのことで不満は聞いていない。	
	【状況】	計画のとおり進んでいる
	【詳細】	
	公民館教室で当初募集していた「親子人権教室」が応募者が皆無で実施出来なかった。また、教室は女性の参加者が多いが、男性は少ない。今後、住民のニーズに沿った教室を検討すると共に、男女共同参画社会を推進していくためにも男女が共に参加できる内容や人権に係った教室も実施していきたい。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

住民の意見・要望を取り入れニーズに沿った教室の開設を行う。また、新たな教室の開設や他の公民館の教室も参考に検討していく。やまなみ文化協会を中心とした実行委員会と、いがまち公民館で共催しているいがまち展覧会は継続し実施する。また、芸能発表会についてはやまなみ文化協会と連携し実施していく。

改善策	【状況】 計画のとおり進んでいる
昨年度の 取組状況	【詳細】 公民館教室で当初募集していた「親子人権教室」が応募者が皆無で実施出来なかった。また、教室は女性の参加者が多いが、男性は少ない。今後、住民のニーズに沿った教室を検討すると共に、男女共同参画社会を推進していくためにも男女が共に参加できる内容や人権に係った教室も実施していきたい。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	中 義晴
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 現在実施している教室そのものは毎回、欠席者がほとんどなく実績としては良好である。自主サークルについても他地域に比べて多くの団体があり、それぞれのサークルが熱心に活動をしている。
	現時点における 課題、その他 女性の参加者が多く、男性が少ない。子どもを対象とした教室が少ない。人権・男女共同参画に関する教室がない。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	本年度に23年度以降、公民館教室については、男性が参加しやすい教室や男女がともに参加していく教室や、また人権に関する教室など検討していく余地がある。また、親子を対象とした教室なども検討する。